
鳥と銃と木漏れ日

西嵐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鳥と銃と木漏れ日

【Nコード】

N5895E

【作者名】

西嵐

【あらすじ】

只の会社員の鳥^{かじす}。彼は社長直属の殺し屋。会社にとって不利益又は有害な存在を抹消するため雇われた殺し屋。そんな彼がある日絵画教室の講師となって……？

第一話「鳥」

「やっぱりお前って、絵心無えよな」

哀しみを込めてそう言つと鳥は血の散らばった部屋を後にした。

……一ヶ月前

「おい鳥、部長が呼んでるぞ」同じ職場の中織なかおりが通りすぎりに耳元で囁く。

「ちえっ、またかよ」溜息を吐きながら鳥は席を立った。

「あれ？何で呼んでるか俺に聞いてみないの？」

「聞いたとしてさ、お前が知ってるとは思えない」

「なんだよソレ、知ってるかもよ？」

「知ってたとしてさ、お前が理解できてるとは思えない」

「あ！お前そーやって言葉尻ばっか取ってコノヤローツ」

ハイハイ。と手を振りながら烏は部長の所へ行った。その後ろでは中織がまだ何か言ってる。

「ちょっと部長、何ですか。この前やったばっかじゃないですか」

「そう言うなって。今度はちょっと社長もマジになってるってよ」

「何ですか？」

「知るかよ、社長の考える事なんだ。」

「ふん」

「ま、俺は何も知らないしさ、社長のとこ行ってこいよ」

「普通、どの会社でもそうだと思うんですけど……今って忙しいんじゃない？」

会社の時計は午後二時十一分を、腕の時計は午後二時八分を、あたかも自分が正しいかのように光っていた。

よくに思えた。

「ウチの社長はアレだ、暇なんだよ」

「あ、いいんですか？そんなこと言っちゃって」

「あーうつせえな、さっさと行け！」部長の顔が少しだけ赤くなっているのに気付く。

やべえやべえ。と、鳥は社長室の方を向く。

「あ、あと一つだけ言っとくことがあった」

「部長、なんですか？今急いでるんですけど」

「その喋り方、やめといた方がいいぞ。社長、怒るかもしれんしな」

「暇、なんでしょ？大丈夫ですって。むしろ喜ぶんじゃないですか？君と話せて嬉しいよ。って」

部長と話すのに飽きてきてる鳥は早く話を終わらせたい。

もういいや。

そう言って鳥は部長の顔をじっくりと見て早歩きで社長室に向かった。

「そういや、暇、だったな」

そう言った部長の声は当然、鳥には聞こえない。

第二話「社長室には五センチの」

「失礼します」そう言って鳥は社長室のドアをノックもせずに関けた。

「おいおい、ノックは？」社長はゴルフの素振りをしながら横目で鳥を見た。

「あ、すみません。でも、仕事中に呼び出したんですからそれくらいの譲歩は必要かと・・・」鳥は半笑いだ。

「鳥。わかってるか？俺は社長だ、社長。」社長は人差し指をくるくると回している。

とりあえず鳥はソファアに座る。

一般社員は社長室では緊張するはずだが、それが鳥には無い。

それもそのはず。

一ヶ月前に入社してから今日までに社長室に呼ばれなかった日が無

いのだから。

少し間があいて秘書がコーヒーを持ってきた。

八月だというのにホットだ。

クーラーの設定温度何度だよ。

鳥は内心そう思う。

「……まあいい。譲ってやるとして、朗報だ」コーヒーを一口飲むと社長は口を開けた。

「何ですか、朗報って」

「決まってるじゃないか、お仕事だよ。お仕事」

「……やっぱり。この間やったばかりじゃないですか」

「細かい事は気にするな。」

「そんな事言つて・・・細かい事を気にしてるから僕なんか雇われるんじゃないですか」

「ははは。そろそろ本題に入るぞ」

「流れ、おかしいですよ」

「さっきも言つただろ？細かいことは・・・？」

「気にするな。でしたっけ？はいはい分かりました。で内容は？」

「詳しい事はそこにまとめてあるからそれを読むといい」

五センチ程の高さに積まれ、『極秘』と書かれた重しが乗せられている資料に鳥は手を伸ばす。

しばらくして鳥の口が動く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5895e/>

鳥と銃と木漏れ日

2010年10月28日07時22分発行